

青文字: 記入例

赤文字: 動物実験計画書を書く上での注意点(作成における注意点)

# 2025・2026 年度熊本大学動物実験計画書

熊本大学長 殿

<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 変更 (選択項目を■)   提出年月日   年   月   日   受付番		責任者とは別の連絡先にする場合は、氏名、TEL、e-mail を記入して下さい。	
※変更の場合変更事項を朱書きで記入   ※継続、変更の場合前回の計画書の承認番号 (   )			
動物実験責任者名	フリガナ   熊 大 太 郎	部局名、分野・学科名 生命資源研究・支援センター 病態遺伝分野	職   大学院生
	氏名   熊 大 太 郎	連絡先 TEL: (内) 6 2 0 5	大学院生 本 莊 次 郎
	e-mail   ooooo@stud.kumamoto-u.ac.jp	連絡先 TEL e-mail: 熊大次郎 (内)6205   ooo@kumamoto-u.ac.jp	動物実験の教育訓練 受講番号 (22-0156)
動物実験実施者名 (括弧内はフリガナ) ※教育訓練を受講していない場合は、教育訓練受講予定と記入(記入例を参照)	九品寺 桜子 (クホシジ サクコ)	病態遺伝分野	准教授 受講番号 (23-0287)
	CLINT SMITH (クリント スミス)	病態遺伝分野: ○○教育部	大学院生 受講番号 (24-0012)
	大江 花 (オオエ ハナ)	病態遺伝分野: ○○学部	学部生 受講番号 (受講予定)
研究課題	○○○○の発がんへの関与及びその○○○○の抗癌作用の検討		
(選択項目を■)	必要に応じて記入欄を追加あるいは別紙を付けて記入して下さい。		
研究内容	○○○○は、がんへの関連が考えられている。○○○○を○○した遺伝子改変マウスを用いることで、その仮説を検証する。さらに、○○モデルマウスに○○○○の抑制薬△△を投与することで、△△の抗がん剤としての有用性を検討する。		
(選択項目を■)	不開示がある場合は、「不開示」にチェックするとともに、該当部分をマーカーで示して下さい。不開示にするのは薬品名やキーワードなど、できるだけ限られた語句になるようにしてください。		
具体的な研究計画と方法	② ○○○マウスの背部皮下に○○○○細胞株を移植し、○○モデルマウスを製作する。このモデルマウスに○○○○の抑制薬△△を投与し、がんの大きさを計測することで、△△の抗がん剤としての有用性を検討する。細胞移植手術は麻酔下で行い、術後の疼痛が予想される。苦痛のカテゴリーはCである。実験は○月間のがんの大きさの変化を観察するが、マウスに回避できない重度のストレスあるいは痛みがからないように、がんの大きさが1cm に達した段階で、その個体は安楽死させる。苦痛のカテゴリーはCである。		
(選択項目を■)	次頁「想定される苦痛のカテゴリー」欄に C、D 及び E にチェックした場合は、文章中に上記アンダーラインのような文章を必ず記入して下さい。		
	記入欄が不足する場合はスペースを拡大あるいは別紙を付けて記入して下さい。		
実験実施期間 (最長2年以内の年度末まで)	承認後 ~ 2026 年 3 月 31 日		実施期間は2ヶ年度以内です。左記の範囲内で記入して下さい。
動物実験の種類 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 試験・研究 <input type="checkbox"/> 2. 教育・訓練 <input type="checkbox"/> 3. その他	動物実験を必要とする理由 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 代替手段がない。 <input type="checkbox"/> 2. 代替手段の感度・精度が不十分である。 <input type="checkbox"/> 3. その他(   )

使用動物 (実験実施期間に 使用する匹数を 記入)	動物種	系統	性別	匹数	微生物学的品質 丸印	入手先(導入機関名)	備考
	マウス	Tet-XX	雌雄	50	SPF, クリーン, CV	熊本大学	
	マウス	B6	雌雄	20	SPF, クリーン, CV	九動	
	マウス	nude	雌雄	60	SPF, クリーン, CV	九動	
遺伝子改変マウスは1つの系統として下さい。系統維持のために使用する数も含めて下さい。必要に応じて記入欄を追加しても構いません。下記の算出根拠は記入欄毎に記入して下さい。							

上記動物の算出根拠とこの動物種を使用しなければならぬ理由(動物種ごとに)

算出根拠：実験1 1回の実験でTet-XX, B6を各10匹使用する。再現性確認の為に一回繰り返すので・・・計20匹  
また、Tet-XXは系統維持のために30匹使用する。  
実験2 1回の実験でヌードマウスを30匹使用する(対照群、△△低用量群、△△高容量群各10匹)。再現性確認の為に一回繰り返すので・・・計60匹  
合計 130匹

マウス使用の理由：実験動物としては小型で一般的に広く利用されて

その他の施設を選択した場合、名称、承認番号、承認年月日を記入して下さい。

動物資源開発研究施設は「新館」と「本館」があります。利用する場合は該当するところにもチェックして下さい。

動物資源開発施設とその他の施設を重複して利用することは出来ません。複数の施設を利用する場合は、「具体的な研究計画と方法」欄に、施設毎に実施者を区別して記入して下さい。

動物の飼養保管 (選択項目を■)	<input type="checkbox"/> 動物資源開発研究施設 ( <input type="checkbox"/> 新館 <input type="checkbox"/> 本館 ) <input checked="" type="checkbox"/> その他の施設( <b>研究支援課 飼育室</b> )承認番号( <b>29-000 AZ</b> ) 2017年 8月 15日 (申請中の場合：受付番号 年 月 日)
動物実験の実施場所 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 動物資源開発研究施設 ( <input checked="" type="checkbox"/> 新館 <input type="checkbox"/> 本館 ) <input checked="" type="checkbox"/> その他の施設( <b>研究センター実験室</b> )承認番号( <b>29-000 BZ</b> ) 2017年 4月 10日 (申請中の場合：受付番号 年 月 日)

新館では軽微な処置に限られます。動物を持ち出して解剖等の実験を行う場合は、その場所を「動物実験の実施場所」として登録して下さい。

	動物種	
想定される苦痛の カテゴリ (選択項目を■)	<input type="checkbox"/>	B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
	<input checked="" type="checkbox"/> マウス	C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
(別添 倫理基準参照)	<input checked="" type="checkbox"/> マウス	D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
	<input type="checkbox"/>	E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い またはそれ以上の痛みを与えられる実験。

上記で苦痛のカテゴリC, D及びEに該当する場合右のa), b)に記入

a) 実験処置により動物にどのような苦痛が予想されるか具体的に記入  
 ・予想されるストレス、痛み等の内容を記入して下さい(手術の痛みだけではなく、病態を生じることにより動物に継続的なストレスがかかる場合も考慮する)。  
 ・上欄でC, D及びEに複数チェックした場合は、  
 カテゴリCは……………。  
 カテゴリDは……………。 というように分けて記入して下さい。

b) 苦痛を最小限あるいは排除するため別の実験系を検討したかを具体的に記入  
 (別の実験系、例えばカテゴリAの可能性について検討したか等)

動物の苦痛軽減、 排除の方法 (該当項目をすべて■)	<input type="checkbox"/>	1. 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。
	<input type="checkbox"/>	2. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。
	<input checked="" type="checkbox"/> マウス	3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。 (具体的薬剤名及びその投与量経路を記入： <b>塩酸メドミジン(0.3mg/kg)、ミダゾラム(4mg/kg)、酒石酸ブトルファン(5mg/kg)・腹腔内投与</b> )
	<input checked="" type="checkbox"/> マウス	4. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。

手術後の動物の管理 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/> 頻回の観察 <input type="checkbox"/> 保温 <input type="checkbox"/> 補液 <input type="checkbox"/> 特別食の給餌 <input type="checkbox"/> 栄養剤の投与 <input type="checkbox"/> 鎮痛剤の投与 <input type="checkbox"/> 抗生物質の投与 <input type="checkbox"/> その他(具体的に記入： )
--------------------------	---

この欄にチェックをする場合は「具体的な研究計画と方法」欄に手術の内容を明示して下さい。

安楽死の方法 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/>	マウス	1. 麻酔薬等の使用 ( <u>具体的薬名及びその投与量・経路を記入:ペンタバルビタル・200mg/Kg・腹腔内投与</u> )
	<input type="checkbox"/>		2. 炭酸ガス
	<input checked="" type="checkbox"/>	マウス	3. 中枢破壊 (具体的な方法を記入: <u>頸椎脱臼</u> )
	<input type="checkbox"/>		4. 安楽死させない (理由: (方法: )
動物死体の処理方法 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/>	マウス	1. 動物資源開発研究施設で処分
	<input type="checkbox"/>		2. 外部業者に依頼
	<input type="checkbox"/>		3. その他 (具体的に

・組換え生物を使用する場合は申請が必要です。  
・承認から5年間有効ですので、実験開始時または実験期間中に5年を過ぎる場合は再申請して下さい。

特殊実験区分 (該当項目を■)	<input type="checkbox"/> 倫理委員会	申請書提出年月日:                    年    月    日
	<input type="checkbox"/> 遺伝子組換え生物等第二種使用等安全委員会	申請書提出年月日:                    年    月    日
	<input checked="" type="checkbox"/> 有害物質使用 ※■の場合 ①「具体的な研究計画と方法」欄の該当部分にアンダーラインを入れる ②「有害物質使用に関する事項」を本計画書と併せて提出する	

※ 継続の場合成果を記入・変更の場合変更の理由を記入

継続の場合 前年度の 成果や研究状況	※ (前年度)の成果や研究状況については実施した実験の概要等を記載、必要に応じて別紙に記載
変更の場合は 変更の理由	<p>・有害物質を使用する場合は、①で指定する部分にアンダーラインを入れるとともに、別紙1(有害物質使用に関する事項)に必要な事項を記入し、この動物実験計画書と併せて提出してください。</p> <p>・有害物質使用に関しては、「ガイドライン」と「有害物質一覧」を確認してください。</p>

委員会記入欄	審査終了:                    年    月    日
	修正意見等
	審査結果 <input type="checkbox"/> 本実験計画は、熊本大学における動物実験規程等に適合する。 (条件等 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え生物等第二種使用等安全委員会の承認後、実験を開始すること。) <input type="checkbox"/> 本実験計画は、熊本大学における動物実験規程等に適合しない。

学長承認欄	承認:                    年    月    日
	本実験計画を承認します。  承認番号: 第                    号  <div style="text-align: right;">熊本大学長</div>